



【韓国】 総合指数は週間で2.5%高と3週ぶり反発、米株上昇で投資家心理改善

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.5%高と3週ぶりに反発した。旧正月の連休に伴い週後半の15-16日は休場となり、立ち会いは週前半の3日間のみだった。12-14日は、前週に指数が6%超下落した反動で安値拾いの買いが広がり、3日続伸した。米株市場が週初から連日で上昇したことも投資家心理の改善につながった。主力ハイテク株のサムスン電子やSKハイニクスなどを中心に外国人投資家の活発な買いが入り、指数を押し上げた。今週は、19日に取引が再開される予定。旧正月の連休中に、米株市場が回復基調を維持したことを受け、出遅れ感が意識され、買い優勢の展開か。主要経済指標は、21日に韓国の1月の生産者物価指数（工業製品出荷価格：PPI）と2月の輸出入統計（20日間）が発表される予定。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で6.5%高と大幅に3週ぶり反発、今週はもみ合いか

先週の動き／今週の展望

RTS 指数は週間で6.5%高と大幅に3週ぶり反発。米国株の反発や原油高などを背景に買い戻し優勢の展開となった。指数を構成する45銘柄のうち35銘柄が週間で上昇。前週末に62ドル台後半で取引を終えたブレント原油先物が、週後半に65ドル超えまで値を戻したことも投資家心理改善に寄与した。1月の鉱工業生産（前年比）が2.9%増となり、前回の1.5%減、市場予想の0.3%減から大幅に上振れしたことも支援材料。指数は週明け12日にプラスで寄り付いた後、16日まで5日続伸。16日1263.27ドルで取引を終え、週の下落分のほぼすべてを埋めた。個別では好調な四半期決算と通期見通しを発表したIT大手のヤンデックスが13.7%高と指数をけん引した。今週はもみ合いか。ロシアの対米関係悪化が気掛かり。

▼指数チャート



【ベトナム】 VN 指数は週間で5.6%高と3週ぶり反発、今週は引き続き堅調か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で5.6%高と3週ぶりに反発。テト（旧正月）の休暇で14日から20日までホーチミン証券取引所が休場となったことで2営業日の取引だったが、前週末の米国株式市場で主要3指数がそろって1%以上反発したことや週明けの原油価格の上昇を受け、買い戻し優勢の展開となった。特に前週に売り込まれた金融株やエネルギー株など主力銘柄が買いを集めた。指数は週明け12日にプラスで寄り付くと、13日に1060.48ポイントまで上値を伸ばし、1059.73ポイントで取引を終了した。指数を構成する351銘柄のうち73%に当たる257銘柄がプラスとなった。個別ではペトロベトナムガスが11.6%高、ビンググループが10.1%高と指数をけん引した。今週は旧正月明けで取引は3営業日だが、堅調な展開が続くか。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.3%高、中央銀行が政策金利の据え置き決定

ジャカルタ総合指数は4日間の取引で1.3%高と3週ぶりに反発。米株相場の回復に連動しておおむね堅調に推移した。週初の12日は前週末のNYダウが上昇した流れを受けて反発すると、14日まで3日続伸。ただ、15日は1月の輸入額が市場予想を大幅に上回り、貿易赤字が拡大したことが嫌気され、小幅に反落して週の取引を終えた。同日に開催された中央銀行の金融政策決定会合では、政策金利が5会合連続で4.25%に据え置かれている。今週は国内の重要イベントが少なく、22日に公表される1月のFOMC議事要旨の内容が株相場を左右する展開か。前週末のNYダウが6営業日続伸したことは好材料。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 2.0%高、1月の非石油地場輸出は前年同月比 13.0%増

ストレーツタイムズ指数は4日間の取引で2.0%高と3週ぶりに反発。連休前の反発が奏功した。週初の12日は反発してスタート。13日は終値で3営業日ぶりに3400ポイントを回復したが、14日は金融株が売られて反落した。同日に17年10-12月期決算を発表したオーバーシー・チャイニーズ銀行とユナイテッド・オーバーシーズ銀行の純利益はともに増加したものの、石油・ガス企業への融資内容が不安視されて売られたことが指数下落の要因。一方、15日は1月の非石油地場輸出が前年同月比13.0%増と堅調だったことが好感されて、前日比1.2%上昇した。今週は23日に1月のCPIが発表される予定。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.1%高、今週は 17年10-12月期のGDPが焦点

SET指数は週間で1.1%高と3週ぶりに反発。小幅なレンジでもみ合いながら、徐々に上値を広げた1週間だった。週初の12日に反発すると、13日は終値ベースで6営業日ぶりに節目の1800ポイントを回復。14日は反動で売られて3日ぶりに下落したが、15日には買い戻された。16日は近隣諸国が旧正月の祝日で休まる中、NY市場で原油先物価格が上昇したことが好感されて続伸。今週は19日に17年10-12月期のGDP、22日に1月の貿易統計（通関ベース）が発表される。GDP成長率に対する市場の反応が注目されるほか、貿易収支が2カ月ぶりに黒字を回復すれば株相場の支援材料になりそうだ。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.0%高、今週は企業決算の内容に期待

クアラルンプール総合指数は4日間の取引で1.0%高と反発。前週に値下がりした反動でじりじりと上値を広げた。週初の12日に反発すると、13日も小幅に続伸。14日は米国の1月のCPI発表を目前に控えた様子見ムードが広がる一方、17年10-12月期のGDPが前年同期比5.9%増と市場予想をわずかながら上回ったことが好感された。15日は米主要企業の好決算を受けて、前日のNYダウが上昇した流れを引き継ぎ、指数は4日続伸して連休前の取引を終えた。今週は17年10-12月期の決算発表が集中する中、内容次第で上値を試す展開か。前週後半に為替相場が米ドルに対するリング高が進んだことは追い風。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。